

# 風土記の丘の花だより<sup>240</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2024年6月15日)

なかなか梅雨入りしませんが、これをご覧いただく頃には、梅雨入りしているかもしれませんね。谷山家のアガパンサスのつぼみがほどけて、間もなく開花しそうです。はやく爽やかな水色の花が見たいものです。



日当たりのいいところに白やピンク色の小さな花がたくさん咲いています。ニワゼキショウです。北アメリカ原産のアヤメ科の外来植物です。明治時代にはすでに渡来していたようなので、昔から日本にあった花のように思いますね。花もかわいいですが、実は丸く、細い柄の先にチョココンと付いて、これもとてもかわいいです。ところでセキショウというのは水辺に生え、細い葉がもじゃもじゃした、何の変哲も無いショウブ科の草です。葉がそれに似ていて、庭に生える事からこんな名前がついたのでしょうか。



万葉植物園でキキョウが咲いています。細い茎の割に花が大きいので倒れそうです。秋の七草の一つですが、毎年こんな暑い頃から咲き始めます。万葉集で「朝顔は 朝露負ひて咲くといへど 夕かげにこそ 咲きまさりけれ」と詠まれている朝顔がキキョウのことと考えられています。つぼみは風船のように膨らんでいて、この花のことを英語で balloon flowerと言われるのも頷けます。別の仲間の植物ですが、キキョウランの花が谷山家の庭で咲いています。



夏を代表する花、キョウチクトウが咲き始めました。写真の花は白ですが、濃いピンク、薄いピンク、真っ赤などいろいろな品種があります。インドが原産と言われていますが、大気汚染や塩害にも強く、様々な所に植えられているので、知らない人はいないほど身近な植物と言えます。まさか口にすると人はいないと思いますが、花も、葉も、茎もすべてに毒の成分を含みます。お子さんが草花遊びなどをされる時は、特に注意してあげてください。毒のことはさておき、きれいな花を眺めて、しばし暑さを忘れる事にしましょう。



ピンク色なのに、ムラサキカタバミです。道ばたでもよく見かける花です。園芸植物にオキザリスという花がありますが、Oxalis (オキザリス) は、これを含むカタバミの仲間全般の属名です。元々は南アメリカの植物で、江戸時代に園芸用として持ち込まれました。身の周りにいくらでも生えているので、そうは思いませんが、よく見るととてもかわいい花で、「さすが園芸植物」という感じがします。花がもっと大きなハナカタバミもよく見かけます。

松下